コロナ下の出産に安心を

各務原の産婦人科がオンライン相談会

出産を控える妊婦や家族の不安を解消しようと、各務原市那加西野町の永田産婦人科は、ビデオ会議アプリ「Ｚｏｏｍ（ズーム）」を使ったオンライン相談会を開いている。新型コロナウイルス感染症の流行で、対面での相談会を休止する代わりに開催。三十一歳の記者と、第一子の妊娠九カ月を迎えた妻（三）も参加してみた。（大山弘）

同病院では妊娠後期の妊婦とパートナーを対象に、院内で「パパ＆ママ教室」を開催し、出産の仕組みや呼吸法、分娩室でのパートナーの振る舞い方を教えていたが、コロナ禍で四月から休止中。五月二十一日からはオンラインに切り替えて毎週開いている。

今月十三日の午前十時半。自宅のパソコンでアプリを起動すると、画面の中には助産師二人が待っていた。助産師の長屋ひとみさん（四）の「気になる症状や不安はありますか」との問い掛けに、妻は「最近食事をすると気持ち悪くなることがある」と相談。記者は「立ち会い出産はできるようになるか」と質問した。

妻の症状は、大きくなった子宮が胃などを圧迫しているためといい、長屋さんは「少しずつ小まめに食べて」と説明してくれた。病院で渡された資料にも同じことは書いてあるが、顔の見える相手に直接教えてもらうと安心感は大きい。

立ち会い出産については「コロナの流行は落ち着いてきたが、今の段階では何とも言えない」と長屋さん。妻の退院まで赤ちゃんに会えないかもしれないという。院内で感染者が出れば影響は大きい。悩ましいが、その気持ちを聞いてもらえたことで、納得できたように思う。後日、立ち会いが可能になりそうだと知らされた。諦めていただけに喜びも大きかった。

ほかに、陣痛室は換気のためドアを開放し、カーテンで目隠しをしていることや、出産中もマスクを着けることなどを教わった。妻は息苦しさを心配していたが、分娩台はビニールカーテンで仕切られ、どうしても苦しいときはマスクを外しても構わないと聞き、少し安心した顔を見せていた。

対面の相談会では人形を使って新生児のお風呂の入れ方を練習するが、今回は動画での説明となった。オンラインではできないこともある。ただ、同病院によると、自宅から参加できるためリラックスして個人的な相談ができることや他の参加者とつながることで、コロナ流行下での不安を共有できるなどのメリットがあるという。

四月以降、記者は感染防止のため妻の妊婦健診にも同席できなかった。こうした講座に二人で参加できたのも初めてだ。これまで病院の資料やインターネットで子育て情報を目にしても正直なところ現実感は薄かった。それが、オンラインとはいえ助産師と直接話すことで、出産が目の前に迫っていると実感できた。

妻も「資料だけでは分からない、陣痛室での過ごし方を細かく教えてもらったのがありがたかった」と振り返る。夫婦そろって参加した意義は大きかったと感じている。

記者夫婦が体験「資料より細かく教われた」

オンラインで行われた教室の模様。助産師ら（画面上右側）から陣痛食に関する説明を受ける記者夫婦（同左側）

岐阜県版

岐阜支社
〒500―8875
岐阜市柳ケ瀬通一丁目12番地
058（265）0191
Fax（262）8706
（販売）（265）0265
（広告）（266）4791
（事業）（265）0267
多治見支局
0572（22）3121
Fax（23）5331
大垣支局
0584（78）2030
Fax（74）6460
高山支局
0577（32）0350
Fax（34）5215
関支局　0575（22）3234
Fax（24）3939
ご意見は読者センターへ
052（221）0800
Fax（221）0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は最寄りの中日新聞販売店へ